女性比率「3割」に

ダイワコーポ

働きやすさ追求の成果

強度を維持しつつ軽量化したヘルメットも一役

ダイワコーポレーション（本社・東京、曽根和光社長）は、女性が活躍できる職場づくりを進めている。倉庫で使う機材などで女性の視点を取り入れ、働きやすさを追求したことが高い定着率につながった。

約20年間、業績に左右されず、毎年一定数の新規採用を続けてきた同社。特に近年は女性の採用を積極的に行い、現在働く約180人の正社員のうち、3割を占める。多くが事務職ではなく倉庫現場で活躍している。

女性の意見を積極的に取り入れ、働きやすい職場づくりを進めてきた。一例が20代のある女性社員の意見を基に、昨年から導入した軽量ヘルメット＝写真。現場の女性社員比率が高まる中、安全と生産性向上の両立には自らの考えを伝える必要があると判断し、上司に相談した。

軽量ヘルメットで男性も楽

従来のヘルメットは男性用で重く、長時間着用すると首に疲労がたまったり、サイズが合わずにずれて視界を遮ったりすることがあった。強度を変えず軽量化したヘルメットの導入後は、女性が長年抱えていた課題を改善。好評だったことから男性にも同じヘルメットを導入し、働きやすさの向上につなげた。

ほかにも、1分単位での残業取得、誕生日休暇制度の導入、社内報の工夫など、社員の意見をベースとした労働環境を推進。新たな人事制度をはじめとしたキャリアプランの見える化にも取り組んでおり、多様な人材が活躍できる職場づくりを加速させている。

（小林　孝博）